



筑紫路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地
Tel 092-581-0431
ホームページ



情報伝達



自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 川口雅久

猛暑日が続いた今夏もやっと暑さの峠を超え、また、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第七波も収束に向かいつつあり、社会活動もポストコロナに向け活発化してきました。このような状況の下、自衛隊福岡病院は、発熱外来、入院加療、各種検査、職域接種、大規模接種センター支援等、新型コロナウイルス感染症に対処しつつ、一般外来や地域救急輪番への参画、各種支援等を実施し、本来業務の機能回復・向上を積極的に推進しているところです。

さて、ここ数年、巷では「昭和の歌謡曲」が静かなブームになっているようです。小官などは、まさにどっぷりと浸かって育った世代であり、懐かしい一方、流れた歳月の長さを目のあたりにし一抹の焦りも感じます。それでも、当時の曲を耳にすると、心地よさを耳触りのよさを感じます。昨今の楽曲に比して（良し悪しではな

く）無理なく頭・心に入ってくる聴き易さ・わかり易さを感じる方は世代を問わず多く、この「わかりやすさ」がブームの一因ともいわれています。

昨今の楽曲は、サブスクの影響等もあり、前奏が短く楽曲自体も短くテンポが速い傾向があるようですが、当時の歌謡曲は前奏も長く曲長は総じて短めで、今の感覚からするとのんびりした曲調でした。つまり、歌詞の文字数は決して多くはなかったのです。にもかかわらず、内容が具体的かつ心情的に様々な理由があるでしょう。比較的ゆつくりとした曲調とともに、言葉が厳選され、重ねられた推敲により歌詞が十分に練られていたことが大きいと思います。

昭和を代表する作詞家に故阿久悠先生がおられます。『津軽海峡・冬景色』『UFO』『勝手にしやがれ』など五千曲以上の作詞のほか、文筆活動にも励まれ、その中で作詞の裏話にも言及されています。一曲の制約の中で、自分が伝えたい事がらを、正確に、かつ、言外のニュアンス・心情までも伝えるために、どれだけの時間と労力をかけて言葉を選び、推敲を重ね、詩を紡いでこられたことか。その努力や困難さがひしひしと伝わってきます。

翻って、現在のスマホ・PC全盛の情報化社会でも、同様に正確かつ適切な情報伝達・文章が求められています。ただ、残念ながら事実関係すら正確に伝えられていないものが少なからずあります。仕事上、または、個人的な情報伝達においても、機器材やシステムが発達に比例した正確な伝達・意思疎通ができていくかという点、甚だ疑問を持たざるを得ません。吟味せずに、ただ、短いだけの情報により、そこから抜け落ちた要素に関する思い込みや誤解などが蔓延している感すらあります。

適時に、正確に、適切な情報伝達を行うことは、命令を根拠として行動する自衛隊としては基本中の基本です。それは、敵に対して効果的に打撃を与えることにももちろん、我の安全を確保するためでもあります。これは、そのまま医療安全にも共通するものです。カルテ・処方箋・指示票・申し送り・大前提として患者さんや医療従事者の安全を確保することは必ず成事項です。その基礎となるのが、タイミングを逸しない、正確にかつ受け手にわかり易い（誤解されない）情報伝達です。

古今東西、慣れ合いや思い込みは、医療安全をはじめ各種安全管理の天敵かつ難敵であり続けてきました。平素から小官を含めた職員全員が、適時に、わかりやすく、かつ正確な情報伝達がなされるよう、内容や表現に心を砕き、その確実な習慣化により任務達成を図っていきましょう。

最先任上級曹長上番挨拶



最先任上級曹長
准陸尉 濱 良道

最先任上級曹長下番挨拶



准陸尉 小浦 泰

令和四年八月一日付で自衛隊福岡病院最先任上級曹長兼春日駐屯地最先任上級曹長を下番しました小浦准尉です。

足りないばかりの私でしたが、二年四カ月の期間、様々な方から頂いたご指導・鞭撻のおかげで、何とか任務遂遂することができました。心より感謝しております。本当に有難うございました。

新着任部長等の紹介



衛生資材部長
2等陸佐
塚田 剛

○ 前所属 自衛隊札幌病院衛生資材部長
○ 出身地 茨城県
○ 趣味等 音楽（聞く・話す・やる）
○ 一言 *色々な方と話す聞く等

この度自衛隊札幌病院から赴任致しました。本院のあるべき姿を徹底的に追及し部員と悩み職員と協力し、当面建替に伴う関連業務を先行的に準備する旨尽力しますので御協力・御指導等宜しくお願い致します。



建替準備室副室長
2等陸佐
木原 好浩

○ 前所属 第一〇三施設器材隊長
○ 出身地 佐賀県
○ 趣味 スポーツ観戦
○ 一言 昭和三十年に開院し、今年で六十七年を迎えた歴史と伝統のある自衛隊福岡病院の建替に従事できることに誇りをもって建替業務に真摯に取り組んでいく所存です。皆様方のご指導・ご支援よろしくお願い申し上げます。

診療圏内衛生科長等集合訓練

六月十三日、診療圏内衛生科長等集合訓練をVTCにて実施し、病院施策等の認識統一を図るとともに、各駐屯・基地での新型コロナウイルス感染症患者発生時における教訓等の情報共有を図り、更なる連携及びその対応の強化を図ることができた。



新卒看護師看護帽戴帽式

防医大看護学科五期生九名は、令和四年三月に自衛隊福岡病院に着隊、その後幹部候補生学校へ入校及び方面衛生隊での隊付教育を六月二十四日に終了しました。

六月二十八日には、看護帽貸与式を終え、期待を胸に看護師として勤務しておりま

す。所属病棟において、専門性を深化させ、同期で切磋琢磨しながらの成長が楽しみです。どうぞよろしくお願い致します。



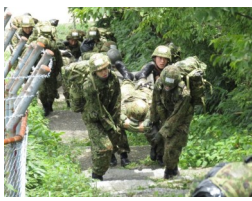
水難救助訓練

准看護学院（学院長・山元二佐）は、八月五日に第四十七期学生、八日・九日に第四十六期学生が水難救助訓練を糸島市二丈深江で実施しました。福岡病院長、最先任上級曹長の視察を受け、海での溺者救助法及び消防夫搬送、BLSを演練し、水難救助の知識・技術を習得しました。



山地行進訓練

准看護学院（学院長・山元二佐）は七月二十二日、第一回山地徒步行進訓練を背振山系で実施しました。第四十七期学生は、猛暑の影響が懸念される中、熱中症の発生に留意しながら、模擬患者に対して患者看護及び搬送を実施しました。本訓練を通して、看護の知識技術及び体力向上の必要性を学ぶことができました。



医療安全評価官改編

三月十七日付をもって、医療安全評価官を改編完了しました。

医療安全評価官、副医療安全評価官、感染対策幹部、感染対策専門官の四名体制となり、医療安全管理活動と院内感染対策活動に密着した業務を行っております。



医療安全職員教育

六月二十日、二十四日、二十七日の三日間で、全職員を対象として、医療安全及び院内感染対策に関する職員教育を実施し、職員の識能向上に努めました。特に、新型コロナウイルスに関する感染症対策として、海上自衛隊佐世保衛生隊司令の田村一佐よりご講義を賜りました。



人事往来

〈転出者〉

《八月一日付》
建替準備室
二 陸佐

山口 欣大

（総務課）
三 陸佐

五十嵐 晴彦

（管理課）
陸曹長

佐々野 瑞枝

（会計課）
一 陸尉

水川 利孝

診療科
二 陸曹

押川 愛孝

衛生資材部
一 陸尉

湯浅 章殿

（薬剤課）
二 陸佐

小野 陽輔

看護部
三 陸佐

武藤 利彦

診療科
一 陸尉

松本 由紀子

《九月二十六日付》
診療科
一 陸尉

通山 文晶

診療科
二 陸尉

下口 慶乃

診療科
二 陸尉

桑原 裕美

診療科
二 陸尉

東原 由莉

診療科
二 陸尉

水嶋 泰樹

診療科
三 陸尉

岸野 涼彩

診療科
三 陸尉

田原 寛一

〈転入者〉

《六月一日付》
診療科
二 陸尉

有本 大倫

診療科
二 陸尉

岡井 悠太

診療科
二 陸尉

永井 知太

診療科
二 陸尉

木原 好浩

診療科
二 陸尉

建替準備室
二 陸佐

村田 友成

診療科
二 陸尉

（管理課）
一 陸曹

村井 恵美

診療科
二 陸尉

（会計課）
一 陸曹

山松 下岳

診療科
二 陸尉

（管理課）
一 陸曹

山松 下岳

定年退官者等の紹介

診療科
一 陸尉

赤野 卓太

診療技術部
一 陸尉

天野 翔史

診療技術部
（放射線技術課）
二 陸曹

中馬 圭祐

衛生資材部
二 陸佐

塚田 剛

（薬剤課）
二 陸佐

谷釜 彰子

看護部
一 陸尉

指山 道香

診療科
二 陸尉

海崎 奈衣

診療科
二 陸尉

岡崎 弘孝

診療科
二 陸尉

山崎 愛衣

診療科
二 陸尉

古賀 章朗

診療科
二 陸尉

松橋 優朗

診療科
二 陸尉

杉谷 佐智子

診療科
二 陸尉

安部 和敏

診療科
二 陸尉

松本 規樹

診療科
二 陸尉

竹尾 拓也

診療科
二 陸尉

中岸 啓治

診療科
二 陸尉

橋本 智

診療科
二 陸尉

山下 英寿

診療科
二 陸尉

鬼木 博孝

